

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195003108		
法人名	一般社団法人 はな		
事業所名	グループホーム はな		
所在地	北見市桜町6丁目2-1		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年4月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlgw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvosyoCd=0195003108-00&Se
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護保険法令に従い、要介護者で認知症疾患のあるご入居者に対し、温かく明るい家庭的な環境の中で、認知症の進行を穏やかにし、精神的に安定した心安らかな生活を送れるよう支援することを目的としています。
また、ご入居者の幸せを願い充分な気配りで共同生活の円滑化を図り、個人個人にあった自立生活を維持・継続できる場としクオリティ・オブ・ライフを確保するよう、“自由で 楽しく 安心”の理念のもと、理解と愛情のある認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護サービスの提供に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に商業施設や大型スーパーがあり、利便性のある場所に位置している2階建て2ユニットの「グループホームはな」は、平成29年4月に母体が一般社団法人に変更し、敷地内にデイサービスやサービス付き高齢者住宅が併設され積極的な高齢者介護を展開しています。地域との関係は良好に続いており、町内会長が運営推進会議委員で敷地内にあるログハウスを町内会議などに提供し地域貢献に努めています。技能実習生を受入れており、特定技能になっており介護福祉士を目指し継続して働く意思をもち当事業所の介護職員の担い手になっています。外国人の技能実習生の育成に関わる生活面の全面的・精神面のケアを事業所の職員の全面的協力の基支えています。「自由で 楽しく 安心」の理念を基に認知症と身体拘束・虐待・言葉の抑制等の防止を含め、利用者の本位になるように管理者は日頃から職員と話し合ったり、身体拘束の指針をミーティング毎に事例の話を行い指導し徹底化を図っています。コロナ禍の中でも居室での面会を行い、利用者の笑顔と家族の安心に繋がっています。また、家族から細目に連絡が入ったり、職員からも連絡を頻繁に行い家族と職員とのコミュニケーションで関係を深め安心して頂ける信頼関係を築いています。

めい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度
		<input type="radio"/> 3. たまにある			<input type="radio"/> 3. たまに
		<input type="radio"/> 4. ほとんどない			<input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			<input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が			
		<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが			
		<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが			
		<input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“自由で 楽しく 安心”の理念を共有し実践につなげるよう取り組んでいる。	日々の業務の中で利用者本位になるように努めています。職員がケアの振り返ることができるように運営理念は、各ユニット毎の玄関やリビング、休憩室等の見やすい場所に掲示しており、パンフレットにも記載されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、現状としては会に参加することができていない。	町内会に加入しており、町内情報（総会・回覧情報）と事業所便りでお互いに情報交換を行っています。町内会長は運営推進会議の委員になっており議事録を通して認知症事業所の周知を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や研修に参加していただけるよう町内会長への情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・包括支援センター職員・知見を有する当法人事業所職員・利用者家族等に参加いただき、会の報告を職員に行っている。	年6回偶数月に書面会議で行われており、議事録は介護福祉課職員、高齢者相談支援センター、町内会会長、民生員、家族へ郵送し意見や要望を受けサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは状況に応じて連絡を取り合う関係が築けている。	担当課に運営推進員のメンバーになって頂き、相談や情報を得て良好な関係を築いています。令和4年度では運営推進会議の議事録について研修の内容や事故・ヒヤリハットの有無の記載についての意見を受け運営改善に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束・虐待防止委員会のメンバーは職員が全員になっており、年4回の会議と年2回の内部研修を実施しています。日々の介護の状況や具体的な弊害はどうして起きるのか、何が問題なのかを説明し職員が自ら考え検討を重ねるように管理者は指導し身体拘束やスピーチロックの防止に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外研修にて虐待防止について学び防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者もあり、担当後見人と話し合いを行い、制度について学ぶ機会を持ち活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時点から、契約・重要事項説明を行い、入居時に再説明し、不安・疑問を利用者に関わる方々で話し合っていたいただき、理解・納得していただけるまで説明を行った上で締結・解約・改定している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話対応を通して、様々な話を行い対応を行っている。	コロナの感染状況や利用者の体調面に配慮し面会時間の制限はありますが、居室での面会を行い利用者家族の安心に繋がっています。細目に電話連絡を行い家族の意見や要望を聞き取っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・カンファレンス等で意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスを中心に活発な職員の意見や提案を受け、運営に反映しています。年計画で内部研修を行い職員のスキルアップに繋がっています。法人では年1回、個人面談を行い要望などは運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各保険の加入、処遇改善加算の申請を行っており、職員の状況に応じて条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらスキルを磨くよう勧め、可能な限り受講できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりや勉強会、相互訪問などの活動を通じてサービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初対面で緊張されたり身構えられることが多いが、ご本人の性格に添い、思いを引き出せるような対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始まで足を運んでいただいたり、電話等にて不安なことや要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向を確認しながら、その方に添ったサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の性格や生活スタイルに添い、できる事を一緒に行っていただくことで生活に慣れ、本人らしい生活を送れるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話・手紙にて生活状況をお伝えすることで家族との関係を築くよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊・面会を通して関係が途切れないよう支援に努めている。	コロナ禍の中でも利用者のお墓参りの外出や大晦日の外泊等は家族の協力を得ながら支援に努めており、利用者の楽しい一時になっています。利用者の馴染みの美容室には家族と一緒に出掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手作業や運動・おやつの時間等を通し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても、施設に来ていただき話をしたり、関係性を大切に、断ち切らないような関わりを利用中から行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努め、困難な場合は本人本位に検討し、職員間でも共有している。	利用者一人ひとりの暮らし方の希望・意向は日常の会話の中で把握するように努めています。表現できない方にはうなずきや表情、行動等で把握に努め家族にも聞き取り、得た情報はミーティング等で情報共有しケアに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・関係機関との連携により情報を集め、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方により、心身状態や残存機能・能力等の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者・職員等と話し合い、現状に即した介護計画作成に努めている。	介護計画は基本的には6か月毎にカンファレンス、モニタリングを行って本人や家族の意向を確認しながら現状に即した介護計画作成と支援に努めています。生活記録には様子が記録され見直しに繋がっています。	利用者個々のケアプランを職員全員が理解し、支援目標の達成度がわかりやすく見直しに反映できるような記録の仕方を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活支援経過記録を通じ、職員間で情報共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して柔軟な支援サービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長・民生委員・包括支援センター職員・知見を有する当法人事業所職員・利用者家族等に協力を得て支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や緊急時の受診等の支援を行っている。	希望する医療機関の受診は家族が対応しています。医療機関により、月1回、2回の往診があり、適宜に歯科や皮膚科の往診もあります。月2回の訪問看護があり利用者の健康管理を行っています。利用者の状態により毎日訪問看護を受けている方もいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携訪問看護事業所の看護師・かかりつけ病院の看護師へ相談し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には家族・関係機関との情報提供やケアについての話し合いを行い、医療機関との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申込や契約時等その時々で早い段階から重度化や終末期のあり方について話し合いを行っている。	入居時に重度化や看取りについて説明しています。重度化の場合は利用者の状態変化等について主治医から家族へ説明があり、相談しながら対応し利用者・家族の希望や想いに沿えるよう努めています。看取りの研修は年1回内部研修を行っています。看取り家族の希望があれば、部屋で一緒に過ごす環境を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内外で急変や事故発生時に備えての検討や訓練を行うよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難誘導訓練の実施を行い、近隣にも協力を仰ぎ、体制を築いている。	年2回、夜間想定で自主訓練を実施しており、主に利用者の安全な避難の仕方や民間の防災関係者に消火器の使い方の指導を受け、職員がスムーズに行動出来る事を目的に行われています。停電対応には当事業所ではカセットコンロや懐中電灯等を用意しています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めている。	基本苗字にさん付けで呼んでいます。大きな声を出さないように、男性職員にはトーンを高めに利用者と話すように指導しています。利用者の人格を尊重し、羞恥心を感じさせないように心掛けています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように声かけや対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員優先ではなく、一人ひとりの生活スタイルやペースを大切にし、希望に添うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容や日常の化粧・更衣等希望に添い身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を把握し、食事を楽しむことができるよう支援している。	調理担当者が利用者の好みを聞き取ったり、気候に配慮しながら1週間毎に献立を作成し、利用者の状況に合わせた形状で作っています。誕生会には本人に希望を聞いたり、行事食やお寿司の出前など利用者の楽しみとなるように取り組んでいます。職員の手作りおやつ(お汁粉、芋団子等)を提供することもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、一人ひとりに応じた口腔ケアに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況の把握を行い、トイレでの排泄を原則として自立にむけた支援を行っている。	基本トイレでの排泄を支援しており、排泄表での把握で声を掛けトイレへ誘導していますが、自らトイレに行く利用者もいます。安全性のためナースコール設置と夜間はオムツ交換、中にはポータブルトイレを使用する方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握を行い、水分や食事にも留意し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めてしまっているが、一人ひとりに添った洗身洗髪等の入浴支援を行っている。	週2回を基本に、入浴剤を使用しゆったりと入浴を楽しんで頂くように支援しています。同性介助の希望やシャワー浴、2人介助の支援を行っています。入浴を嫌がる方には職員交代や時間を置くなど無理強いしないよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したり、安心して眠れるよう、一人ひとりに添い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用・用法や用量について、調剤薬局からの薬の情報を確認し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や残存能力を活かした支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望者が年々減少してきているが、希望に沿い、戸外にでかけられるよう努めている。	中庭の桜が咲く時期にはウッドデッキから桜を見たり、日光浴を楽しんだり、気分転換を図っています。日常的には外出は好まない方が多く、体操や歌を歌ったりレクリエーション(風船バレー、パズルなど)に参加し生活維持能力を低下させないように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状としては金銭管理ができないこともあり入居された方々がほぼ全員ではあるが、お金を所持する機会があれば、使えるよう支援に努める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの力に応じ支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節の飾りつけを行ったり、四季を感じ心地よく過ごせるような工夫をしている。	ソファで寛ぐ所と食卓テーブルのある共用空間は、季節毎や行事の飾り付けを職員が行っていますが、利用者が手伝うこともあります。リビングで寛ぐことが多くテレビを見たりと利用者は思い思いに心地の良い場所でゆったりと過ごしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが思い思いに過ごせるような居場所の工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用前からご自宅等で使用していたものをお持ちいただき、本人らしく心地よい生活が送れるよう工夫している。	事業所では収納し易いクローゼットやカウンターテーブルが設置され、使い慣れたベットや椅子、冷蔵庫、仏壇などが持ち込まれています。家族や孫の写真、絵のポスター等が飾られ、その人らしい生活が出来るように配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、できることを生かして生活が送れるよう工夫している。		